

第20回日本眼感染症研究会 (臨眼グループディスカッション)

日 時：1983年9月16日

場 所：経団連会館パールルーム (東京都千代田区大手町1-9-4)

世話人：徳田久弥 杏林大学医学部眼科学教室

9月16日9:00-12:30

■ 一般口演

1. アミノ配糖体系薬剤 (HBK) のヒト房水、及び涙液への移行
我喜屋重光、矢田浩二 (杏林大)
2. 最近の外部眼感染症における検出菌の検討
天野了一 (杏林大)
3. 南九州における細菌感染症の現況
小山恭子、藤田晋吾 (鹿児島大)
4. 長期コンタクトレンズ装用時に認められる結膜のう細菌分布
奥野廣子、成味知子、内野 允、宮永嘉隆 (女子医大第二病院)
5. 眼感染症における *Streptococcus faecalis* の病的意義
大石正夫、永井重夫 (新潟大)
6. 日和見感染によって生じた内因性、真菌性眼炎の一例
武市吉人、山下秀明、宇山昌延 (関西医大)
7. *Paecilomyces lilacinus* による角膜真菌症の一例
高槻玲子、内堀 環、富吉幸徳、中島裕子、藤之原仁美 (関西労災病院)
戸矢崎紀紘 (神戸市環境保健研究所)
8. 水痘皮内反応によるポスナーシュロスマン症候群の病因検討
田中康夫、張野正誉、檀上真次、原 二郎 (近畿中央病院)
山西弘一、高橋理明 (大阪大微研)
9. 汚染市販目薬による眼瞼結膜炎の一例
青木功喜 (札幌市)
10. 睫毛及び頭髮に寄生したケジラミの症例
春田龍吾、可児一孝 (兵庫医大)、西村 猛 (同医動学教室)
11. Cefotiam による術後感染の治験例
小林 修、徳田久弥 (杏林大)
12. 角膜ヘルペスの内皮細胞-発病初期の変化-
笠置裕子、金子行子、内田幸男 (女子医大)
13. OCULAR REACTIVATION OF HSV-1 BY ADRENERGIC INDUCTION

Yoshikazu Shimomura, Louis P. Gangarosa, Mamoru Kataoka,
James M. Hill (Dept. of Cell and Molecular Biology Medical College of
Georgia, USA)

14. 緑膿菌と単純ヘルペスウイルスとの混合感染
塩田 洋、井上須美子 (徳島大)
15. IDU 耐性ウサギ角膜ヘルペスに対するインターフェロンの点眼効果
寺西秀人、今田直基、小林俊策 (山口大)
16. 細菌性角膜炎の実験的研究—接種法について—
石橋康久 (筑波大臨床医学系)、松本雄二郎 (筑波大)
17. 実験的緑膿菌およびブドウ球菌性角膜潰瘍におけるリムルス・テスト
松本健二、秦野 寛 (横浜市大)
18. 抗生剤点眼液の結膜嚢内残留濃度に関する検討
富井隆夫、福田正道、景 守光、佐々木一之 (金沢医大)